

「(仮称)大田区におけるMICE誘致の戦略とあり方(案)」(部分骨子)

1. 戦略策定にあたって

(1) 大田区においてMICEに取り組む背景

わが国の観光立国実現に向けた基本計画である「観光立国推進基本計画」(平成29年3月28日閣議決定)では、観光旅行者のみならず「MICE」¹目的の旅行者を増やすことも重要として、戦略上、その誘致と推進は重要な柱として、成果はKPIにも設定されています。また東京都は、平成25年に国際会議開催の拡大を図るべく新しく設定されたグローバルMICE戦略都市(現:グローバルMICE都市)に選定されており、独自に「東京都MICE誘致戦略」(平成27年7月)を策定し、世界トップ3に入るMICE開催都市を目指して、誘致に向けた着実な取組が進められています。

大田区は、わが国の玄関口の一つである羽田空港を擁し、また東京都を構成する一員でもあることから、わが国のMICE推進においても重要な地位にあり、国や都と歩調を合わせて、MICE施策の推進を加速していくことが期待されています。そのため、区の観光振興にかかる新しい基本計画である「大田区観光振興プラン2019-2023」(平成31年3月)の基本戦略においても、「大田区らしい」MICEの推進を位置付けました。

(2) 本戦略の目的と意義

①地域経済や地域社会の一層の成長・飛躍

重層的な消費・経済活動を伴うMICEの開催は、開催地への経済波及効果が大きく、地域経済の活性化、ひいては開催地のブランド力・認知度向上につながります。大田区では、対外的なブランド力・認知度を向上するために、平成30年度からシティブロモーションへの取組をはじめたところです。戦略的に「大田区らしく」MICEに取組み、確立していくことで、より一層の区の成長・飛躍を果たしていきます。

②区内観光産業の発展

区の観光振興施策は、これまで主として一般観光、近隣観光を中心として展開してきました。今後は、MICE推進を区の観光振興施策における基本戦略に位置付けたことをふまえ、近接するビジネス市場等に対するアプローチを強化していくことで、区内観光産業の一層の発展に寄与していきます。

③中長期的視点からのMICE施設の利用最適化の推進

区内の公的MICE施設は、現在でも高稼働率を誇っていますが、曜日や時間帯に応じたより効率的な利用可能性が指摘されており、近い将来には羽田空港跡地の再開発により、高度なMICE施設の設置も見込まれることから、これらの利活用を推進していきます。

¹ 企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字であり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称である。

2. 大田区MICE推進にかかる現状と課題・問題点

(1) MICE開催によって得られる主要な効果

MICEを開催することによる主要な効果として、観光庁は「ビジネス・イノベーションの創造」「地域への経済効果」「国・都市の競争力向上」の3点を挙げています。

MICE開催によって得られる主要な効果

[1] ビジネス・イノベーションの機会の創造

MICE開催を通じて各地から様々な人が集うことは、来訪者と地域のネットワークを構築し、新しいビジネスやイノベーションの機会を呼び込むことにつながります。

[2] 地域への経済効果

MICE開催を通じた消費支出や関連の事業支出は、開催地域を中心に大きな経済波及効果を生み出します。会議開催、宿泊、飲食、観光等の経済・消費活動の裾野が広く、また滞在期間が比較的長いと言われており、一般的な観光客以上に周辺地域への経済効果を生み出すことが期待されます。

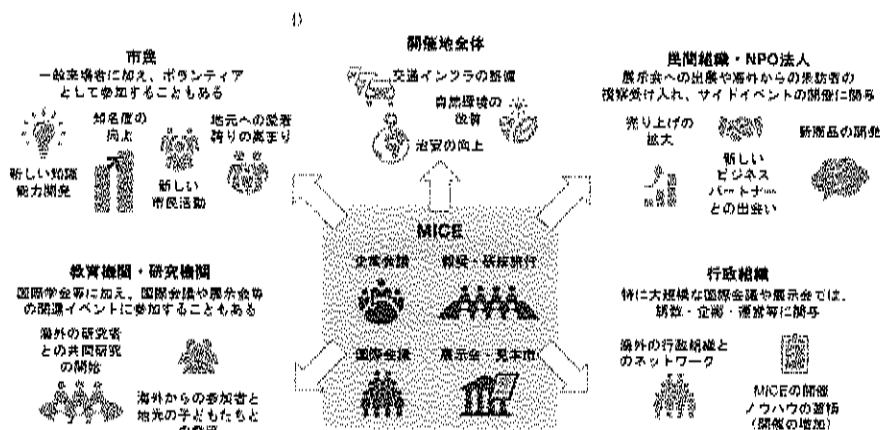
[3] 国・都市の競争力向上

MICE開催を通じた情報の流通、ネットワークの構築、人の交流等は、ビジネスや研究環境の向上につながり、都市の競争力向上につながります。MICEは、多くの国・都市の経済戦略において、戦略分野・成長分野における産業振興、イノベーション創出のためのツールとして活用されています。

資料) 観光庁資料より三菱UFJリサーチ&コンサルティング作成

このように、MICEの効果は関係者にとどまらず、短期的には経済効果を、中長期的にはビジネス機会や研究促進等の幅広いレガシー効果²を幅広くもたらし、都市の成長や発展につながると考えられています。

国が掲げるレガシー効果の波及イメージ



資料) 観光庁「平成30年度MICEによるレガシー効果等調査事業」(平成31年3月)

² 特定の人のニーズにマッチし、具体的な受益が発生した効果

(2) MICE誘致に向けた区の課題・問題点と可能性

①課題・問題点

1)区内MICE施設や宿泊施設、見学利用施設の高稼働

区立のMICE対応施設は既に高稼働率で推移しており、受入容量の余力が少なくなっています。さらに、区内の宿泊施設や工場見学等を実施している民間施設、さらには羽田空港の発着枠等も既にキャパシティオーバーであることも指摘されています。

このような条件下であることから、各MICE対応施設のレベニューマネジメント³を意識し、効率化を図る必要があります。

2)周辺地域との役割分担、棲み分け

大田区はグローバルMICE都市である東京都を構成する一員であり、都との連携をふまえた都内他自治体との役割分担は重要な観点となります。また、関東地方にはグローバルMICE都市が4つあることから、それぞれの得意分野を意識しつつ、棲み分けを進めていくことも、現実的な観点からは重要です。特に大規模MICEは都心での開催が意識されており、大田区内での開催可能性は施設の面からも個別に検討が必要とされます。

大田区の強みやアピールポイントをしっかりと意識した上で、戦略的なMICE誘致を行う必要があります。

②区の有する可能性

1)ものづくり、技術、産業にかかる都市イメージ

大田区は「ものづくり」について、全国トップクラスのイメージを有しており、また、東京都に位置することから、「IT・先端技術」等でも、全国での相対的な地位が非常に高いものとなっています。

2)商店街・飲食店等の商業環境や、親水空間等の自然環境にかかる都市リソース

住民からは商店街や飲食店などの集積や、水辺空間等の自然も高い評価を得ていますが、区外にはそのイメージが持たれていないことから、今後のイメージ強化が望まれます。

スポーツ分野では、多くの国際大会やトップクラスの試合が開催されているものの、そのイメージが大田区と結びついておらず、同様のイメージ強化が必要です。

3)民間施設の充実

特に中小規模の民間会議施設の集積は、類似地域に比して充実しており、民間施設を活用した小規模なMICE誘致の優位性が指摘されています。

³ 適切な販売管理の実施により、需要を予測して収入の最大化を図ること。

3. 方向性

背景、潮流と区の課題・問題点、可能性から、「大田区らしいMICE」という当初からのキーワードをふまえ、その推進の方向性を整理しました。

(1) 将来像と取組

大田区のMICE誘致環境は、羽田空港の跡地再開発前後で大きく変化すると見込まれます。そのため、再開発前の当面の取組と、再開発終了後の中長期的な取組の大きく2つに区分して、方向性を整理しました。

①当面の取組にかかる方向性

1) 「大田区ならではの」テーマ型MICE開催

対外的に、大田区の特長として広く認知されている「ものづくり」「技術」等のイメージを活用し、これらのテーマ性、情報発信力のあるMICE誘致に取り組みます。

また、蒲田・大森、調布、羽田と、地域で異なる顔をもせることをふまえ、地域別のイメージを意識したテーマ設定により、多様なMICE誘致に取り組みます。

2) 「大田区ならではの」中小規模MICE開催

わが国グローバルMICE都市の中核である東京都心や横浜市、千葉市等と隣接する都市特性をふまえ、大規模な国際MICEについては、区内の魅力的なアフターMICEプログラムの提供等により、これらの都市と連携して取り組みます。

一方で、一定程度の都市機能集積と豊富な中小規模民間施設、有力な見学可能施設を有する大田区ならではの特性を活かし、中小規模のMICE誘致に積極的に取り組みます。なお、この際、CEに対応できる施設の稼働率が高く、受入容量が十分ではないことから、当面はMIに力点を置いた取組を想定します。

②中長期的な取組にかかる方向性

大田区には「日本の玄関口」羽田空港が立地していますが、都心へのアクセス性の高さ故に、現時点では大田区内の各地域への波及効果は少ないと考えられています。しかし、今後は跡地再開発の進展に伴い、空港隣接性を活かしたMICEの誘致可能性が広がること、レンタサイクルや公共交通網の整備に伴い、区内での移動自由度が高まること等から、中長期的な視点からは、国際会議や大規模CEの開催地としても期待されます。

大規模な国際CEはリードタイムが長く、誘致活動の結果がすぐに得られるものでないこともふまえ、将来的な大規模国際会議等の誘致もにらみつつ、現時点から体制を整えていきます。

(2) 基本方針

方向性をふまえ、下記のような基本方針に基づいて、当面のMICE誘致を推進します。

①誘致するMICE規模

大田区の多様性とMICE資源の集積を活かし、中小規模の多様なMICEを受け入れます。

②誘致するMICEテーマ

ものづくりや技術に関する強固なイメージを活用し、これらのテーマ性を帯びたMICEを誘致します。

③他地域との連携

「東京」のイメージの活用が有効であること、羽田空港跡地で大規模MICEに対応できる施設が整備されることをふまえ、都と連携の上で大規模、国際等に区分されるMICEへの取組も、中長期的な視点から行います。

(3) 主たるターゲット

基本方針から、大田区にとってのターゲットとなるMICEの類型、およびそのアピール対象として想定される主体は、下記のように考えられます。

①区内および近隣地域の企業や団体等によるクローズドな会議

区内および近隣地域の企業、特に本社企業への訪問者に対する説明会や、新卒採用にかかる説明会、さらには区内に立地する学校の同窓会など、数十人規模の会議や会合を想定し、誘致を図ります。

②全国および海外も含めた製造業企業や大学、研究所等による視察旅行や研修

全国および海外のものづくり系企業や大学、研究所等による、区内企業や団体等への視察旅行、研修などの数十人規模から数百人規模の受入を想定し、誘致を図ります。

③周辺都市で開催される大規模MICEに対するアフタープログラムの提供

グローバルMICE都市が集中する関東圏に位置する点を活かし、周辺都市で開催される国際MICEや大規模MICEに対して、大田区の特長である産業系の施設見学を中心とした魅力的なアフターMICEプログラムを提供し、誘致を図ります。

4. 施策

MICE推進戦略を展開するための施策については、「大田区観光振興プラン2019-2023」（平成31年3月）との整合性もふまえ、下記のように設定します。

施策1 地域一体となった推進体制の整備

(1) 民間企業、経済団体、大学、宿泊施設等との連携

地域のMICE関係者とスムーズな情報伝達が行える体制を構築することで、主催者ニーズの取りこぼしを防ぐほか、区内消費の促進やデータの収集に役立てます。

(2) 地域における機運醸成

経済波及効果の算出や区内で生じ得るレガシー効果の整理を行い、地域のMICE関係者や住民の理解を得ることで、地域一丸となったMICEのおもてなしを可能にします。

(3) 人材の育成・登用

MICEビジネスや、MICEに関連する区内施設や産業、観光等を実地で学ぶ機会を設け、大田区MICEの中核を担う人材を育成し、関連ポストに登用します。

(4) 発展的な推進体制を見据えた検討

区内のMICEビジネスのあり方や、地域内外の連携体制を都度見直し、形を変えながら発展的に取り組んでいけるよう、実施内容を評価するための調査を実施します。

(5) 周辺や関連自治体などとの連携によるMICE誘致力の強化

周辺や関連自治体と棲み分けが必要な部分や連携可能性のある部分を整理し、区として価値提供できる部分を明確化した上で、他自治体との連携に活かします。

施策2 区内資源の有効活用

(1) 施設・インフラの活用

レベニューマネジメントの考え方を取り入れ、効率的・効果的なMICE施設やインフラの活用に取り組みます。

(2) ユニークベニューの開発

他自治体の事例からユニークベニューとしての活用が見込まれる施設や、区の強みやイ

メージを活かせる施設について、ユニークベニューとして発掘、可能性を検討します。

(3) アフターコンベンション・エクスカージョン等の充実

テクニカルビジットや区内飲食店巡り等、主催者および参加者ニーズを汲んだアフターコンベンション・エクスカージョンメニューを開発します。

(4) 資源のパッケージ化

過去のMICE事例を元に、スムーズな提案が行えるように、MICE資源をパッケージ化します。

施策3 MICE対応力の強化

(1) 支援体制の充実・円滑化

他自治体の事例を参考にしつつ、円滑な支援を行えるような連絡窓口およびその後の情報伝達ネットワークの整備、提供する情報の整理を行います。

(2) グローバル対応の充実

国外からの集客が見込めるMICE施設等において、多言語対応をはじめとするグローバル対応を可能とする体制を整備します。

施策4 重点分野の設定による誘致活動の展開

(1) 重点分野の設定

区の強みやMICE開催実績、施設稼働状況や、周辺自治体の取組状況を踏まえた上で、重点分野を設定します。

(2) プロモーション体制の整備

重点分野のMICEを効果的に呼び込めるよう、ソフト面・ハード面共にプロモーション体制を整備します。

(3) 誘致活動の展開

誘致担当を配置し、アプローチ先を絞り込んだ上で、重点分野を中心とした効率的、効果的な誘致活動を展開します。

5. 取組体制（骨子）※体制の検討については別資料参照

